

閉鎖不全の進行や瘤の増大を認める例では、これらの合併症の修復に限定した外科治療が必要と考えている。

### A-III-14 解離性大動脈瘤の外科治療について

浜松医科大学 第1外科

原田 幸雄 鈴木 一也 金井 宏之 竹下 力  
大久保 忠俊 河原崎 秀雄 橋本 大定 山口 貴司  
吉村 敬三

解離性大動脈瘤の治療についてはまだ定まった手術方法がなく症例ごとに最善の方法を選ぶ必要がある。われわれの教室で経験した症例は 15 例であり、I 型 3 例、II 型 1 例、IIIb 型 11 例である。このうち I 型 2 例、II 型 1 例、IIIb 型 6 例に手術を行った。

#### 症 例

I 型および II 型は表 1 に示す 4 例で、第 1 例は anuloortic ectasia を伴う Marfan 症候群で Bentall 法に Cabrol's trick を加え、右冠動脈解離のために Gore-Tex による A-C bypass を追加したが 1 カ月後 MOF のため死亡した。第 2 例は Marfan 症候群であるが大動脈弁閉鎖不全が軽度のため内膜亀裂部で解離腔を閉鎖しパッチグラフトを縫着し 2 年後の現在元気に仕事に従事している。第 3 例は II 型で発症後 5 カ月の慢性期であったが心室性不整脈が頻発し大動脈造影により図 1 のごとく拡張期には仮性腔に血流が戻り真腔の著しい狭窄が認められた。リング付グラフトを挿入した後には不整脈も消失し術前は冠血流が抑えられたと考えられる。I 型の 1 例は脳卒中後の片麻痺、神経性膀胱などがあり手術をせず退院したが 2 年を経過し健在である。

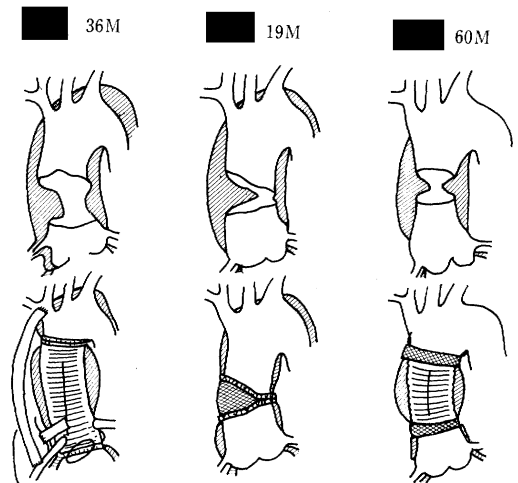
IIIb 型の手術例は 6 例で、第 1 例は急性期に手術を行ったが縫合部からの出血で死した。

第 2 例は嚢胞腎による高血圧、腎機能不全のある症例で発症後 18 日目にリング付グラフトを挿入したが、術後も腎機能障害、stress ulcer などから MOF となり 2 カ月半後に死亡した。以後の 4 例は thromboexclusion 法を行った。第 3 例は術後 1 年 9 カ月の現在通院中であるが、その間に早期胃癌を認めレーザー焼灼により治療を続けている。第 4 例は冠動脈に狭窄を認めるも狭心痛なく thromboexclusion 法を行ったが翌日心筋梗塞による左室破裂で死亡し long bypass による冠血流の減少が

原因と考えられた。第 5 例は体重 100 kg 以上の格闘技の選手で脂肪壊死から縦隔炎を併発し死亡した。第 6 例は胃切除の既往がありフィブリン糊加工の double velour graft を腹直筋後面から側方に回わして腹部大動脈に吻合し経過良好で退院したが 5 カ月後に胸部大動脈瘤の

表 1 I・II 型 解離性大動脈瘤症例

手術例						
症例	時期	病型	手術	結果		
1	36M 13日	I Marfan	Bentall+ A-C Bypass	死		
2	19M 53日	I Marfan	パッチグラフト	生		
3	60F 5カ月	II	リング付グラフト	生		
非手術例						
4	71M 12日	I		生		



60 F

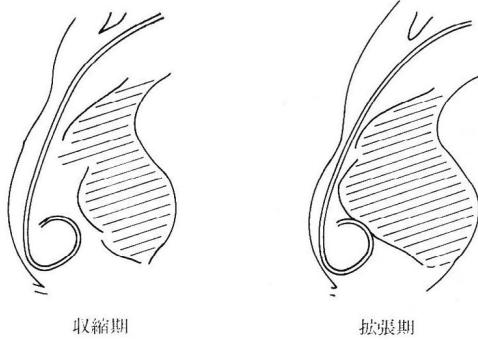
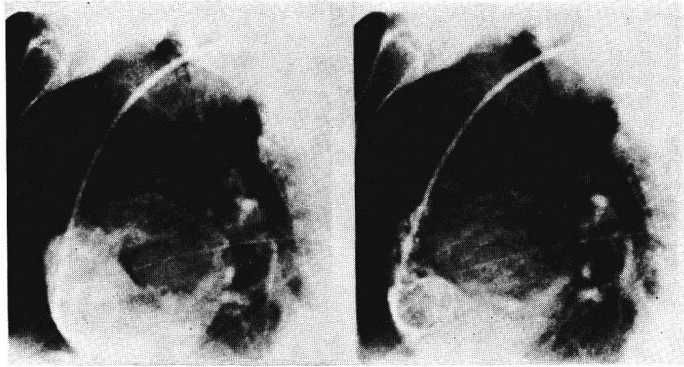


図 1

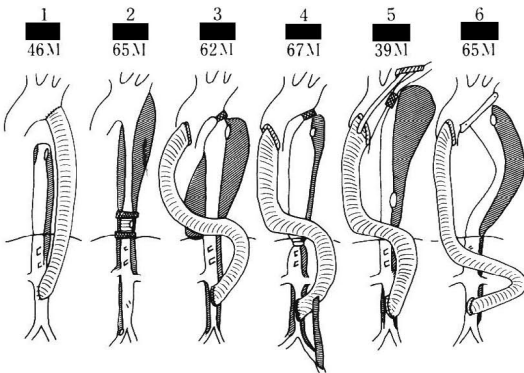


図 2

破裂で死亡した (図 2)。

III b 型の非手術例は 5 例で、そのうち 1 例は腹部大動脈瘤の手術の既往があり血管造影上は解離の所見がなく

嚢状の胸部大動脈瘤の診断で手術を予定したがその前に破裂し死亡し、剖検では解離が腹部のグラフトで妨げられ仮性腔内圧の急速な上昇が原因と考えられた。さらに 1 例は腎機能不全で死亡している。その他の 1 例は胃癌と同時に診断されたが胃癌の手術のみで退院した。

**考案および結論**

以上の 15 例は 60 才以上が多く他の疾患を合併している症例がほとんどで手術の適応に問題がある。I, II 型は手術を行うべきであるが、III 型保存療法の 5 年生存率<sup>1)</sup>は胃癌の stage III の手術後の生存率<sup>2)</sup>および脳卒中中の保存療法とほぼ同率で、われわれの症例のように慢性期 III b 型では悪性腫瘍の治療を先に行うべきである。方法として thromboexclusion 法は冠血行障害や遠隔期破裂などの点から再検討する必要がある。

文献 1) Sutton, MSTJ, et al.: J Thorac Cardiovasc Surg 22(3); 195~202, 1981. 2) 多賀須幸男: 胃癌, 日本臨床 41 春期臨時増刊号; 1324~1335. 1983 より引用 3) NIN

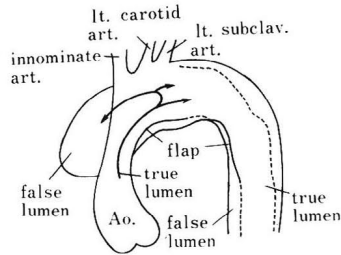
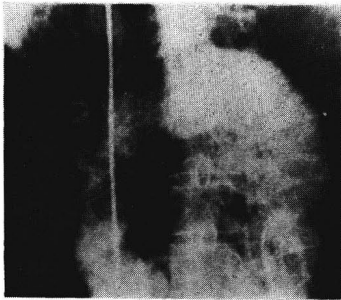
CDS: The national survey of stroke, Stroke 12: Supplement No 1, 1981.

### A-III-15 逆行性解離をともなう弓部起始性解離性大動脈瘤の3手術例

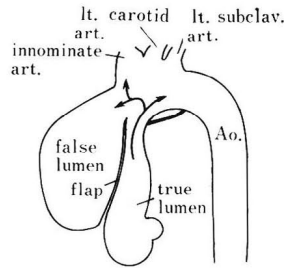
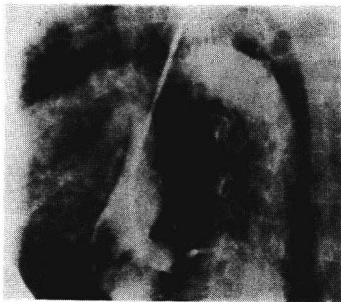
大阪医科大学 胸部外科

大 関 道 麿	佐 藤 晴 瑞	木 村 弘	奥 孝 彦
西 本 孝	志 熊 肅	岸 田 尚 夫	井 上 隆 夫
	佐 々 木 進 次 郎	武 内 敦 郎	

case 1



case 2



case 3

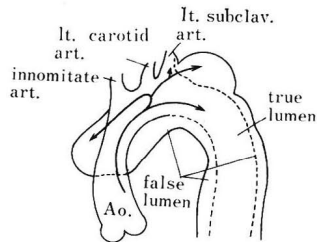
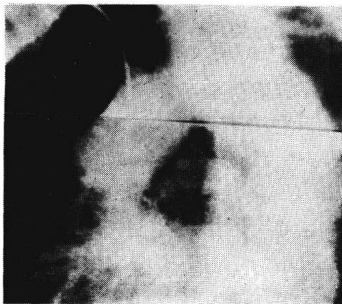


図 1 Aortographic findings